

留学体験（現地）レポート

国際学部 国際文化学科 2年 21014100 広瀬拓未

私は、中国に行くまで海外には一回（グアム）にしか行ったことがありませんでした。海外に行ったとはいえ修学旅行で、長くは滞在していません。海外と言うと、いろいろな国の人がいて生活から食事まで様々な違いがあるというイメージ。国際情報大学に入学した当初は、中国留学のことは全くと言っていいほど考えていませんでした。中国語を学ぶうちに留学への意識が高まっていきました。きっかけというと本当に些細なもので、中国がどういう国なのか自分の目で見てみたいと思い始めたことです。中国というと、汚い、危ないなどといったあまりいいイメージは持たないかと思います。不安はありましたが、親元を離れ生活を全て自分でする良いきっかけとして行くことを決断しました。

中国に来たときの第一印象は、空気が悪い。それは飛行機を降りたときから違いを感じていました。元々空気が悪いと聞いていましたが、行く前はどれほどのものか想像もつきませんでした。中国での生活が1ヶ月くらい経った頃、中国の空気に少しは慣れましたが、空気が汚いというイメージは変わりませんでした。

交通状況は日本とはまるで違い、スピード制限はあるのかというくらいスピードのでている車も見受けられた。他にも、少しでも隙間があれば斜線を変えて前に出てこようとする。クラクションも常に鳴っておりとても危険な状況だった。日本とは違い、赤信号でも右折可能なので交差点では直進する車と右折の車で道が大変なことになることも見受けられた。歩行者も車が避けるのが当たり前のように赤信号でも普通に歩いている。

同部屋の人とも文化の違いを感じた点がある。例えば、自分が買ってきた物干竿を無断で使われたり、トイレは流さなかったり、音楽を聞きながら飛び跳ねたり、24時を回り自分が寝ているにもかかわらずパソコンから大音量で音楽を流したり。逆に日本人は繊細で自分のことよりも相手に気を配ったりする。日本では当たり前のことが他の国では当たり前でないことが多い。他の学生からも聞いたりしていたがやはり文化の違いはあったようだ。文化の違いの中で生活していくのは、容易ではないが、お互いに指摘したりすれば少しは分かり合えることも分かってきました。同部屋を日本人ではなく外国の人にすることはこの先、無い経験をできて貴重だと思います。学ぶ点が多くありました。

中国は上で挙げたように、悪い点ばかりではないことも知ることができ、さらに体験もできた。例えば、校内で見たのは自転車を倒してしまった時、近くの人が手伝っていたこと。自分も町を歩いている時などで物を落とした時に、落とした物を拾ってくれたり、親切な人ばかりだなと感じた。日本では見て見ぬ振りをする人も多い中でそういった点では、助け合いが何気なくできる国なのだなと感じた。

今回、留学で経験、体験したことは一生忘れられない事です。ニュースの報道は悪いことばかり目立っているが、留学に来てがらりとイメージは変わった。ただネットやニュースを見て、中国は汚い、危ないなどと言う人は多い。そういった人たちは一度中国に来て、また中国人と関わって自分の目で見て体感して欲しい。